



能代高校東京同窓会会報 第 18 号

奮え松陵、我が健児

発行日：平成 20 年 9 月 1 日
発行人：能代高校東京同窓会
責任者：太田 勝治
編集：会報制作委員会
印刷：大森太田印刷 (有)



能代南高校の時代に、体操の鍋谷鉄巳、小野喬のヘルシンキ・オリンピック (1952 年) 出場の功績を讃えて記念碑が建立された。後ろの建物は校舎と別棟の図書館。樽子山校舎の東側前庭にて、1974 年撮影。この地から巣立った偉大な先輩に敬意を表す。写真提供／袴田邦夫 (第 45 期)

平成 20 年度 能代高校東京同窓会総会のご案内

【日時】平成 20 年 10 月 4 日 (土)

□受付 12:00 ~

□総会 12:20 ~ 13:00

□講演会 13:00 ~ 13:30

講師 泉 牧子 (能高第 48 期)

JA 秋田やまもと

宮農生活部ふれあい課 課長

□懇親会 13:00 ~ 16:00

【場所】アルカディア市ヶ谷 5 階 大雪の間 (詳細は 8 ページに掲載)

【年会費】3,000 円 (1 世帯)

*お振込、または当日受付にて受領します。

【懇親会費】男性 7,000 円 女性 6,000 円

*割引制度や特例があります。詳細は 8 ページをご覧ください。

【出欠】同封のはがきに記入して 9 月 19 日 (金) までに投函して下さい。

輝く偉業を成し遂げた先輩

能代高校東京同窓会会長 太田 勝治

今年も会報編集委員会が中心となって松陵第 18 号が無事発行されました。昨年もそうでしたが、今年も同窓生からの素晴らしい記事がとても沢山寄せられて、編集委員会はうれしい悲鳴を上げ続けたようです。今回はその中で特に印象に残った記事を取り上げてみました。

この 6 月に、スキーヤーで登山家の三浦雄一郎さんが 70 歳でエレベースト登頂に成功したという大ニュースがありました。日本だけではなく世界中から喝采が贈られました。三浦さんはこの日のために持病の心臓病を克服しながら長い間登頂訓練を繰り返しての快挙でした。実はこの会報 18 号にも偶然ですが、お二人の先輩の輝く偉業の記事が載っていました。お二人共定年を迎えた 60 歳になってからの挑戦です。お一人は 25 期的那須秋男さんの「71 才の挑戦」です。プロのスキーの先生のライセンス取得するまでのことですが、本当にすごいですね。もうお一人は 24 期の山縣輝輔さんです。こちらも定年後に再度大学に入学して郷土研究に取り組んでの卒業論文の大作を完成させました。特に山縣さんはよく郷里の方へ行かれていたので、定年後は時間がたっぷりあるから優雅でいいなあと思っていましたが、遊びではなく取材旅行だったのですね。

「ローマは一日にして成らず」のことわざですが、スキーライセンスにしても郷土研究の卒論にしても、年齢には関係なくいくつになってもその気になって諦めずに継続すれば、達成できるものですね。体力、気力、頭脳、信念の四拍子があってこそできるものですね。

お二人の先輩はこれだけでは終わらずに、これからもさらに上を目指して精進し続けることと思います。我々も年を取りすぎるとか、金がないからとか、時間がないから、才能がないからとか「～ない、～ない」と言って自分から先にあきらめずに夢を持って、希望を持って自分なりの成果を少しでもあげたいものです。



東京同窓会の皆様へ

能代高校同窓会会長 田中 仁純

東京同窓会会員の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

過日秋田県南部に甚大な被害をもたらした地震では、故郷への通信も一時不通となり心配された方々も多かったと思われます。能代・山本は大きく揺れましたが、おかげ様で、無事で安心した次第でした。

母校も、井上前校長が卒業式目前に体調をくずされ、心配しましたが、その後の経過も良好ということで、また、後任に山本達行新校長を迎えて順調に推移しています。着任後、同窓会役員会で顔合せをしました。山本校長、青柳教頭共々同窓会員ということで、私たちはこの上なく心強く、盛り上がっています。

山本校長は就任挨拶で、在任中に是非甲子園に行かせたいと申され、その実現に日夜努力しているこのごろですが、ここ 3 年ぐらいで、たしかな手ごたえを感じる試合が多く、平成 7 年以来の夢を結ばせてくれるものと確信しています。

7 月 7 日の秋田魁新報に「教育に新聞を」というキャンペーンで、母校の「校友時報」となつかしい文字を目にしました。「夢と志をはぐくむ学校を目指して」のテーマで 2007 年から実施している Will Project、すなわちインターンシップやライフプランの活動ぶりが紹介されています。3 年目を迎えた今年はさらに充実し、全国的にも注目されているということです。人材豊富な東京同窓会の皆さんからの協力は欠くことのできない大きなファクターであり、後輩の育成のため絶大なご協力をお願いしたいものです。

能代から明るいニュースはなかなか拾いあげることができませんが、地域の優秀な人材が集まる母校のさらなる充実・発展が、長い目で展望すればもつとも確実に地域の発展につながることを確認しながら、同窓会会員相互の研鑽と、母校への協力に邁進しております。東京同窓会の益々の発展をご祈念申し上げます。



6 月の能代高校

能代高等学校校長 山本 達行 第 39 期

東京同窓会の皆様には、平素より多大なご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。



6 月下旬、能代高校の周辺は、松の瑞々しい緑に取り囲まれ、身も心も緑に染まっていくような気にさせてくれます。特に、前庭の松は、同窓会の力添えで手入れも行き届き、高校としては珍しいほどの、見事な景観を見せています。近くを走る国道沿いの松に、松食い虫の被害が拡大している現状を考えると、この先の心配は尽きませんが、大切に育てていきたいと思ひます。

さて、今春の卒業生の進路実績を見ると、国公立大進学者が過去最高の 115 名 (合格者 134 名) に達し、医学部医学科への進学者も 5 名を数えました。これは、全卒業生の 49% にあたり、私立大学進学率 35% を大きく上回る結果となりました。地元能代の経済状況も反映していると思ひますが、粘り強く、7 科目の勉強をする生徒が増えてきたことも事実です。

また、今年部の活動では、体操部が団体で、柔道、陸上で個人 (各 1 人) がインターハイ出場を決めました。また、文化部の活躍がめざましく、無線部 (ARDF 競技) が韓国での世界大会と鹿児島での全国大会へ出場するほか、放送部 (3 人) が全国コンクールへの出場権を得ています。この後、弁論部 (ディベート)、演劇、囲碁・将棋部などが全国を目指して大会に臨みます。

そして、硬式・軟式の両野球部も、着々と力を蓄えています。硬式野球部は、県北春季大会で優勝し、全県大会で秋田商業高を破ってベスト 8 に残りましたが、ベスト 4 をかけた準々決勝で秋田南高に逆転負けを喫してしまいました。軟式野球部も、春季リーグ戦では優勝しましたが、春季大会では秋田工業高に敗れてしまいました。しかしながら、硬式、軟式とも、強豪各校の実力に大きな差はなく、どこが全国大会に出てもおかしくない状況です。この数週間の持っけいき方が勝負と見ています。吉報を東京に届けたいものです。

また昨年来、井上前校長が立ち上げた Will Project も、少しずつ前進しています。様々な調査と分析により、本校の課題や取り組むべき方向性

がより具体化してきました。難しい問題も多々ありますが、「全ては生徒の幸せのために」を合い言葉に、生徒の可能性を最大限に伸ばす学校を目指して進んでいきたいと思ひます。倍旧のご支援とご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、東京同窓会の益々の発展と、会員の皆様のご健勝とご活躍を心より祈念いたします。

will Project については、平成 19 年発行の本紙 (第 17 号) に、井上高廣先生にご寄稿いただきました。17 号をお持ちでない方は、東京同窓会ホームページでも公開しておりますのでご覧ください。



松をはじめとした木々が美しい能代高校の前庭
(2008 年 5 月撮影)

印刷・製本
ホームページの作成・更新

大森太田印刷有限会社

太田 勝 治
(第 29 期 三種町鹿渡出身)

〒143-0015 東京都大田区大森西 2-1-21
電話 03-3765-1779・FAX 03-3766-1228
E-mail : ota-p@nifty.com
URL : <http://homepage2.nifty.com/ota-p/>

**** 同窓生インタビュー ****

松尾一彦 「樽子山ライブをきっかけに同級生に再会」

1974 年のデビュー以来、オフコースほかさまざまなグループのメンバーとして、ギタリストとして、プロデューサーとして多方面で活躍中の松尾一彦さん (43 期生) に、この会報のために語っていただきました。



まつお かずひこ

[ギタリスト、作曲・編曲家、プロデューサー]

1954 年秋田県八森町 (現・八峰町) 出身。小学校まで比内町で育ち、八森中学校から能代高校へ進む。卒業後、大間ジローとともにジャネットを結成し '74 年にデビュー、'76 年オフコースに加入 ('89 年解散)。'96 年よりソロ活動を続けるかたわら、ABC や THE UNIT などのユニットでも活動。ギタリストとして吉田拓郎などのツアーに参加し、プロデューサーとして斉藤和義を手がけ、作曲家として稲垣潤一、森川由加里、MAYUMIGRACE ほか多くのアーティストに楽曲を提供している。

●バンド結成～能高祭や卒業コンサートで演奏

高校時代は 1 年から 3 年まで仲間とバンド活動をしていました。能高祭には毎年出ましたけど、1 年のときは、すごく人が集まったんだよね。2 年目からはほとんど人がいない状態だったから、別に僕らを見たいから集まったわけじゃなくて、バンドに興味のあった時代なのか、うまく運営してお客さんが集まりやすく企画した人がいたのか、それは定かではない。体育館が満杯になって、そこで演奏したのはジミ・ヘンドリックスやザ・フーの曲です。

メンバーには能代高校生だけでなく能代工業に入った中学時代の友だちもいたから、工業の学校祭にも出てました。能代工業では、オックスのまねして失神するグループが人気で、お客さんも集まりました。

3 年の 3 学期には、公民館を借りて、ストマック・トラブルというバンド名でコンサートをやりました。自分たちで企画して、学校にはちょっと反対されたりしたけど、いろいろ建前が必要みたいでね。それは僕らのバンドだけのライブだったから、「みんなでやりましょう」としたほうが学校は OK だったのかもしれない。

●十里強歩の楽しみ

音楽以外の思い出といえば、十里強歩。八森から最終列車で能代に出てきて、出発まで遊んで、夜中の 12 時に出発して…というのが楽しくてしょうがなかったかもしれない。歩きましたよ、もちろん。変にのろろ走るよりも、早足で歩きました。ラジオを持ってきてるやつもいて、番組にリクエストを出したようで、ラジオから「能代高校のみなさん、きょうは十里強歩で夜中に歩いてるみたいだねー。じゃあ、この曲を送りましょう」と聞こえてきて、あちこちで歓声があがってね。そのあともラジオ DJ が「十里強歩をやってる人たちも、そろそろ疲れてる頃だろうから」と言って、ラジオ体操の音楽をかけてくれたり。楽しかったですよ。

●デビューへの道

高校生活の最後に、大館鳳鳴高校の大間から電話がかかってきて、「東京でコンテストがあるから、何曲か覚えて、出ないか」と誘われました。ちょうどキャロルみたいなバンドが売っていたロックンロール・リバイバルの頃で、ロックンロールの曲でコンテストに出ないかということで。僕はその頃どちらかというハードなロックンロールをやっていたので、自分がやってる音楽とは違うんだけど、やってみようと思って出ることにしました。

大間とは、夏休みだったか、同じイベントに出てみたいんです。イベントといっても、地元のだけかが企画したもので、あの頃はフリーコンサートや 99 円コンサートとかが、はやったんですよ。少し上の世代のなかには、人をいっぱい集めたくて、ウッドストック・フェスティバル (1969 年) みたいなことをしたくて、企画する人がいたんですね。お客さんもたいしていなかったけど、大間はイベントで僕を見ていて、声をかけたようです。

卒業式のちょっと前に、「津軽」かな、夜行に乗って、上野に到着して、そのまま新宿に向かって、伊勢丹の屋上でコンテストに出たんですよ。そこで準優勝して、日比谷野外音楽堂の「ロックンロール・フェスティバル」に出演させてもらいました。そのイベントに出られることだけが賞品というコンテストだったんですよ。それをきっかけにプロに近づいていくんです。

それから武道館で開催されたコンテストでも優勝して、そのあとにテレビでコンテストがあるからと誘われて、出たのが『キンキン&ムッシュのザ・チャレンジ』です。その番組で優勝して、知らないうちにレコード会社も決まっていました。

●「悠久の都 -My Home Town-」

八森にたびたび行くようになったのは7～8年前からです。2001年に始まった「白神フェスティバル」というイベントのために、地元の人から声をかけてもらって、それで行く機会が増えました。

たまたま田舎をイメージして曲を作ったので、それを町にプレゼントしたら気に入ってもらって。なにかにつけてその曲を町で流すとか、そういうことをできればいいんじゃないかなと思っていたら、それをもとにイベントをやりたいということになって、「白神フェスティバル」をプロデュースすることになりました。その曲は「悠久の都 -My Home Town-」というんですが、その後NHK『みんなのうた』で「悠久の杜」というタイトルで放送されたんです。

●能高出身の音楽家たちとの交流

高校時代、宮城伸一郎（チューリップのベース奏者）やとんぼちゃん（ともに44期）とは、会えば「おう」と言うような関係だったけども、あまり一緒になにかをやったことはありませんでした。1回だけ、今はジャズ・ピアノ奏者の納谷嘉彦（43期）が先に立って企画したコンサートで、一緒にやったことはあります。

自分を含めて、みんな音楽が好きなのはわかるけど、将来だれがどうなるなんて全然考えてもいなかった。なにせ田舎で考えていてもどうにもならないだろうと思ってたから。でも、みんなそれぞれ音楽をやりましたね。

宮城とは能代高校つながりということで、2006年に二子玉川で一緒にライブをやったんです。音楽出版社（アストロミュージック出版）の社長の五代儀彦秀が僕と同期で、宮城も旧知の仲なので、3人でやりましょうということになりました。高校卒業して以来初めてですね。今まではそういうジョイン

トをやったことがなかったんだけど、それも楽しいかなと思って。彼はそのときチューリップのツアーを忙しくやってた頃ですね。だから財津和夫さん（チューリップ）も見に来てくれたりして、宮城はやりにくかったんじゃないかな（笑）。

●樽子山ライブ

去年（2007年9月14日）、樽子山の能代文化会館で、ソロのライブを初めてやったんです。ずっと能代でやりたいとは思ってたんだけど、自分で企画してメンバーも連れていくというのは、なかなか大変なんですよ。それで二の足を踏んでる状態だったんですけど、能代高校の先輩の浅野貞博さん（天洋酒店）が実行委員長をやってくれることになって、実現したんです。いい会場はあるかな？と聞いたら、樽子山に文化会館があるじゃないですかという話で、もうびっくり！タイトルはベタだけど「樽子山ライブ」にしました。一緒に活動しているメンバーを連れて行って、パーカッションだけは、秋田に大間がいるので、彼にゲストで出てもらいました。

ライブの日は同級生が集まってくれて、高校卒業して以来初めて会う連中ばかりでした。オフコースのときも秋田市までは行くけど、ずっと連絡もしていないのに、急に「ライブがあるから来て」ってみんなに言うのは後ろめたかったんですよ。ほんとうにみんなよく集まってくれたなと思います。久しぶりに友だちの顔を見て、ほとんどの人は5分ぐらい経つとちょっとした表情で思い出すけど、卒業アルバムと見比べても全然わからないやつもいるんだよね（笑）。なんでこんなに長いあいだ会わなかったんだろうなあと、ずいぶん不義理をしてしまったような気分でした。

東京でも能代高校時代の連中と会う機会はあまりなかったんだけど、そういうこともあって、去年あたりから、声をかけてもらってはたまに会うようになりましたね。

●同窓会メンバーのみなさんへ

同級生とも三十数年ぶりに会って、やっと再交流しはじめたところで、もっと前から同窓会のことを知ってればよかったなと感じます。いつか、おじゃましたいなという気持ちです。

文中に登場する「樽子山ライブ」や宮城伸一郎さんとのジョイント・ライブについては、松尾一彦さんの公式サイト（<http://www.gallery-untitled.com>）にて写真付きのレポートが公開されています。当時の学校のようすもうかがい知ることができます。ぜひご覧ください。

取材（2008年6月28日）／淡路和子（第55期）

***** 恩師インタビュー *****

安井信雄先生**教師の motivation を高めてくれる学校**

今回は、昭和 47 年 (1972 年) 4 月から昭和 55 年 3 月までの 8 年間、英語科の教師として能代高校に在職された安井信雄先生にお話をうかがいました。

安井先生は能代高校の 27 期 (新制 9 期) 生でもあります。生徒として過ごした時代も教師として過ごした時代のことも、今も鮮明に思い出されると話してくださいました。

**◆能代高校でとくに印象に残っていることは？**

母校への赴任は大きな誇りでしたが、重責でもありました。共通一次試験の導入 (昭和 54 年から) など、入試制度の改革が進められている時代で、「進路指導の効果的な方策と体制の確立」が急務でした。紆余曲折はありましたが、各教科と学年部を中心とした協力体制がうまくとられ、着実に成果が上がっていったことは大きな喜びでした。

赴任した昭和 47 年に、新校舎建築の第 1 期工事が始まりました。49 年 10 月末、住み慣れた樽子山から高埜の校舎に移転したときのことは、とくに強く心に残っています。

トラックで運ばれてくる机や椅子、備品などを、職員と生徒が一丸となって搬入しました。樽子山を去る寂しさを乗り越え、新地高埜から雄飛しようと決意を新たにしている作業でした。移転後の通学、通勤には苦勞が伴いましたが、広い校地の新しい学舎の生活に徐々に慣れていきました。

◆能代高校生気質、能代高校生らしさとは？

優しく、素直で、団結力が強いのが、能代高校生の特質だと思います。

能代高校生は授業に積極的に取り組み、反応が素直で教えがいがあり、教師の motivation を大いに高めてくれます。学ぶ者に素直さがなければ、授業の効率や成果は期待できません。能代高校が、教師にとって一度赴任すると去りがたい学校である所以です。

また、能高祭や学級対抗スポーツ大会などの行事で発揮される結束力の強さは、昔も今も「能代高校生らしさ」の象徴といえるでしょう。

◆先生ご自身の高校時代の思い出は？

弁当を二つ持って高足駄を履いて、北能代駅から汽車で通学しました。よき教師や級友たちに恵まれ、授業も友との語らいも exciting で、毎朝登校するのが本当に楽しみでした。

当時、英語の先生の指導と援助の下で「英語輪読会」が開かれていましたが、初めて原書の短編小説にふれたときは大いに感動したものです。

部活動は「弁論部」に所属しました。部員は少なかったのですが、2 年と 3 年のときに 3 人編成のチームで「全県高校討論会」に出て、連続優勝できました。議論の展開を予測して自分たちの主張を組み立てる作業は楽しくもあり苦しくもありましたが、貴重な体験で、教師になってからもさまざまな場面で役に立ちました。

3 年のとき、体操部とバレー部がインターハイでアベック優勝を成し遂げ、提灯行列で祝ったときの感激は忘れられません。後にオリンピックでも活躍したバレーボールの菅原貞敬さんとは、東雲中学校から一緒の同期です。

◆近況をお知らせください。

退職して 10 年が経ち、昨年「古稀」を迎えました。退職後 2 年間は、県教育委員会のスクールアドバイザーを仰せつかって、能代山本地区の小・中・高等学校を訪問しました。小・中・高の校種間の連携を密にして、「一人ひとりの子供の成長」に視点をおいた教育のいっそうの充実を図ることが重要ではないかと考えさせられました。

昨年度までの 3 年間は、能代北高の文部科学省指定研究事業 (SELhi = Super English Language high school) の手伝いをしました。若い先生たちの熱意から、多くのことを学ばせてもらいました。

◆最後に、能代高校同窓生へのメッセージを。

「君たち能高生は選り抜かれたエリートなのだ。そのことを自覚してあらゆることに取り組み」というのが、私の高校時代の恩師の口癖でした。

どんな状況にあっても、誇りと自信を持って前進せよと諭されたのでした。恩師の言葉をお借りして、とくに若い層の同窓生各位へのメッセージにしたいと思います。

いま私たちを取り巻く状況は不安に満ちていて、将来のことはきわめて不透明です。自信と英知を持ち、グローバルな視点に立って世の中をリードしていく人材が多数輩出することを願っています。

皆々様の充実した人生の展開をお祈りいたします。

◇平成 20 年 7 月 19 日、能代市西通町の安井先生のお宅でお話をうかがってきました。最近市内の「風の松原」を 4～5 キロ歩くのが日課ということで、たいへんお元気なご様子でした。

安井信雄先生、ありがとうございます。

吉田真由美 (第 46 期) 記

*会報制作委員会より

お話を聞きたい先生、近況を知りたい恩師など、リクエストがありましたらお寄せください。

***** 特別寄稿 *****

教員生活の始まりの学校

～能代高校東京同窓会に参加して

小西 和子



能代高校在職当時の小西 (北川) 先生
(第 46 期生の卒業アルバムより)

昨年 (2007 年) 10 月、お誘いを頂いて初めて同窓会に出させて頂きました。懐かしい顔に出会ったとき、30 年以上の年月が一瞬にして縮み、みなさんの顔の後ろに当時の十代の高校生の顔がしっかり見えたのです。ヒトの記憶のすごさを感じました。

東京に住んで長くなりますが、能代高校で過ごした 5 年間は今でも時々思い出します。今、教鞭を執っている高校では健脚大会と言って 50km を歩く行事を行なっています。まだ 26 回と歴史は浅いのですが、この行事のたびに能代高校の十里強歩を思い出します。当時は一緒に歩いて「おもしろかったね」で終わっていましたが、今は担当者として無事故で続けることの大変さを感じています。

能代高校での忘れられない思い出はたくさんありますが、そのうちの一つは薪ストーブにまつわる出来事です。授業でひと通り説明が終わり、みんなが問題を解いていたとき、一人の生徒が「先生、コー

ヒーどうぞ!」と言ってストーブの上のせてある葉缶のお湯でコーヒーを淹れてくれたのです。「何と気の利くクラスだろう」と妙にうれしくなったのを覚えています。また、あるとき教室に行くとストーブの上に大きな鍋が置いてあり、なんと中にはカレーの具が煮えていたのです。みんなで肉や野菜を持ち寄り、今日の昼食はカレーだと言うのです。「ご飯は?」と聞くと、みんなそれぞれ弁当にご飯だけ持ってきたとのこと…。さすが能高、バンカラな面が残っていた頃の思い出です。きっと今の高校ではあり得ない懐かしい高校生活でしたね。

そんな高校生が今ではみな 50 歳。元気に同窓会に参加されていらっしゃるようですが、三十数年の歲月にはきっといろんな出来事があったのではないのでしょうか。そんな人生を感じさせるシワがみなさんのお顔に少し見えました。

私は今も教員を続けていますが、いつの時代も高校生の「何かに頑張る、挑戦したいという気持ち」は変わらないように思います。みんな秘めた力を持っていると信じて、成長のお手伝いをしています。能代高校は私の教員生活の始まりの学校でした。何も出来なかった私を育ててくれたところです。皆さんありがとうございます。また、機会がありましたら、同窓会にお声をかけてください。

同窓生のみなさんのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

*小西 (旧姓北川) 和子先生は樽子山校舎時代の昭和 45 年 (1970 年) から 49 年の 5 年間、理科 (物理、化学、地学等) を担当されました。なお、当時の能代高校の暖房は「薪ストーブ」だったそうです。

* 2007 年 10 月の総会・懇親会では、初参加者として小西先生にごあいさつしていただきました。また、今年 10 月の同窓会にも出席していただける旨、ご返事をいただいております。



平成 20 年度 能代高校東京同窓会総会・懇親会のご案内

【日時】平成 20 年 10 月 4 日 (土)

受付 12 時～

総会 12 時 20 分～ 13 時

講演会 13 時～ 13 時 30 分

講師 泉牧子 (能高第 48 期)

懇親会 13 時 30 分～ 16 時

【会場】アルカディア市ヶ谷 (私学会館)

5 階 大雪の間

市ヶ谷駅より徒歩 3 分

JR、地下鉄新宿線、有楽町線、南北線
(地下鉄は A1-1 または A-4 出口より)

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25

電話 03-3261-9921

<http://www.arcadia-jp.org/>

【年会費】3,000 円 (1 世帯)

* 卒業年次による免除や割引はありません。

* 世帯制につき、ご夫婦とも同窓生の場合はお二人で 3,000 円となります。

* 2008 年の新卒者に限り、本年のみ年会費は頂戴しません (本校同窓会に納入済み)。

* お振込、または当日受付にて受領します。

【懇親会費】男性 7,000 円 女性 6,000 円

* 割引制度や特例があります (下記参照)。

【出欠】同封のはがきに記入して 9 月 19 日 (金) までに投函してください。

【連絡先】能代高校東京同窓会事務局
(大森太田印刷内)

電話 03-3765-1779 FAX 03-3766-1228

e メール ota-p@nifty.com



【懇親会費の割引・特例】男性 7,000 円 女性 6,000 円から、以下のとおり差し引きます。

- | | | |
|------------|--------------------|-----------------------------|
| (1) 初参加割引 | 総会・懇親会初参加の同窓生は | 3,000 円引き |
| (2) 若者割引 | 第 57 期生以降の同窓生は | 3,000 円引き (来年は第 58 期生以降が対象) |
| (3) 学生割引 | 学生の同窓生 (年齢不問) は | 懇親会費を免除 (年会費のみ受領) |
| (4) 新卒者の特例 | 今年 2008 年に卒業した同窓生は | 1,000 円のみで参加できます |
| (5) 家族の参加者 | 同窓生の家族の参加者は | 3,000 円で参加できます |
| (6) 友人の参加者 | 同窓生以外の参加者は | 5,000 円で参加できます |

★ (1) と (2) は重複可とします (例: 初参加の 60 期生男性の場合は、計 6,000 円引きで、懇親会費は 1,000 円となります)。

* ちょっと健康が不安という方も、ご家族やご友人と一緒に参加してください。

* ご家族に同窓会の雰囲気を見せてあげたいという方も、遠慮なくお連れください。

* 卒業期がわからない方は封筒の宛名ラベルや東京同窓会ホームページの卒業期早見表をご覧ください。

* 大先輩や若年層が参加しやすいように工夫しました。声をかけあってご出席ください!

講演会 演題：「JAンビニ立ち上げの裏話 ～本当は怖い食の話～」

講師：泉 牧子さん(第48期)

J A秋田やまもと
営農生活部ふれあい課 課長



J A秋田やまもと(三種町鹿渡)に全国初のJ Aによるコンビニエンスストア「J AンビニAN N・AN(ジャンビニあんあん)」を立ち上げた泉さんに、安心・安全をテーマに掲げるコンビニの逸話や、食のことをお話しいただきます。



<プロフィール>

1959年 能代市生まれ
1978年 能代高等学校卒業
1980年 秋田県立農業短期大学卒業
旧鶴川農協に生活指導員として勤務
その後J A合併を経て、現J A秋田やまもと勤務
その間、広報、監査、企画等に携わる
2004年 営農生活部ふれあい課 課長就任
現在に至る

<主な活動・受賞歴>

1985年 「安心して食べる運動」立ち上げ、添加物排除を掲げる
2000年 スローフード運動立ち上げ
2002年 全国食生活コンクール会長賞受賞
2003年 秋田県農林水産大賞受賞
2005年 全国地産地消表彰事業農林水産大臣賞受賞
2006年 全国初J Aンビニ立ち上げ
2007年 東北大学農業経済学会実践賞受賞
2008年 男女共同参画大賞 受賞

平成19年度総会・懇親会の出席者(敬称略)

2007年10月13日 於：アルカディア市ヶ谷

【19期】小林肇【21期】五十嵐資和、信太吉右エ門【23期】矢口裕【24期】山縣輝輔、畑江道弘、木村喜作【25期】畠豊彦、佐々木胤麿【26期】八柳昭義、佐々木章、畠山信孝、佐々木高博、鎌田吉郎、野呂文雄【27期】檜森寛、大村真陸郎、梅田政男、後藤信義、若松正雄*、高砂浩、山田邦夫、斎藤秀夫、栗原優子、加賀義介、工藤豊、佐藤齊【28期】石川輔宏【29期】太田勝治、関根市男、宮腰興紀、石川正順、宮腰瑞夫、鈴木元紀、佐藤晃一*、清水武久【30期】熊谷幸夫、工藤トシ子*、田村正宏、今立駿*、相沢節夫*、田中勝美*、藤田道義【31期】長岡満夫*【32期】高田政勝【33期】皆川尚一*、清水靖子*、武田功、矢木信章【34期】棚橋東峰*、庄内正、長岡忠光、金田三千夫*【35期】石山真*、横田真理子、佐々木正男、田村博*、干場革治、戸松大洋*【36期】深井学、加藤和海【37期】若狭秀己、小野津世子【38期】豊嶋誠、金野正道*、佐藤春香*、棚橋牧人*、宮腰昇*【39期】大塚進、菅原渉【41期】小河範也、鈴木幸男*、大久保英生【43期】福岡武、菊池忠夫、佐藤悌弘、幸坂和彦*【44期】庄内俊憲【45期】三浦洋、袴田邦夫、大塚雄蔵、平野信任、鎌田泰宏*、真崎裕、高松武史、塚本裕幸*【46期】石井喬、吉田真由美、斉藤靖雄【47期】平川均、和平忠幸【48期】北林蒔子*、野村松信*【49期】片谷浩之、松永京子、田村盛仁【51期】袴田亘【53期】吉田順、梶原禎子【54期】佐藤篤規*【55期】淡路和子【58期】原田長政*【62期】大高忠勉【63期】福本円【67期】小野立【75期】小松かおり*、小松佳徳*

以上会員参加者 107名 氏名の後の*は初参加者28名

◎ 恩師1名 ◎ 友人3名 ◎ ゲスト1名 ◎ 来賓17名

以上参加者総数 129名

平成 19 年度 総会・懇親会のご報告

平成 19 年度の東京同窓会総会および懇親会は、2007 年 10 月 13 日（土）、アルカディア市ヶ谷において催されました。講演にはシダックス株式会社副会長の若松正雄さん（第 27 期）を講師に迎え、「時代の变化とともに歩んだ映画屋、そしてカラオケ屋」をテーマにお話しいただきました。また、アトラクションとして尺八奏者の今野鈴道さん（第 38 期）が出演し、琴奏者の清水靖子さん（第 33 期）とともに演奏していただきました。

